

# 調査結果の概要編

児 童 生 徒

保 護 者

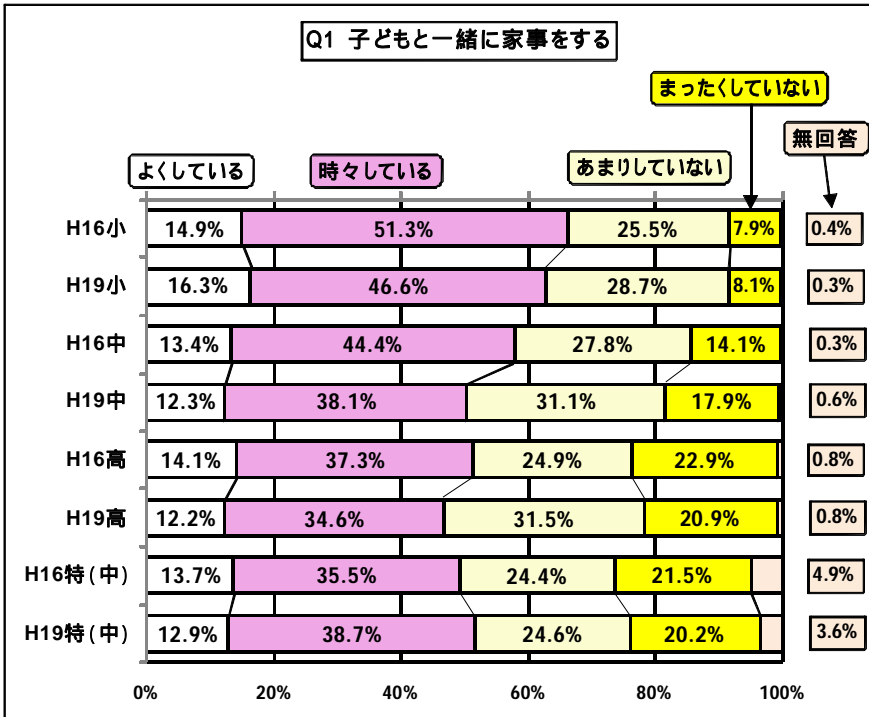
学 級 担 任

# 1 自分の実態に最も近いものを一つ選択(保護者1～35)

保護者1 子どもと一緒に家事をする

小・中・高・特  
Q1・Q1・Q1・Q1

⇒ 学年が上がるにつれて機会が少なくなる傾向



【概要】

16年度調査と同様に、学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少し、機会が少なくなる傾向にある。また、中・高等学校では16年度調査と比較して、肯定的な割合が減少している。

肯定的な割合

- 小 62.9% (3.3% 減)
- 中 50.4% (7.4% 減)
- 高 46.8% (4.6% 減)
- 特 51.6% (2.4% 増)

( )は16年度調査との差

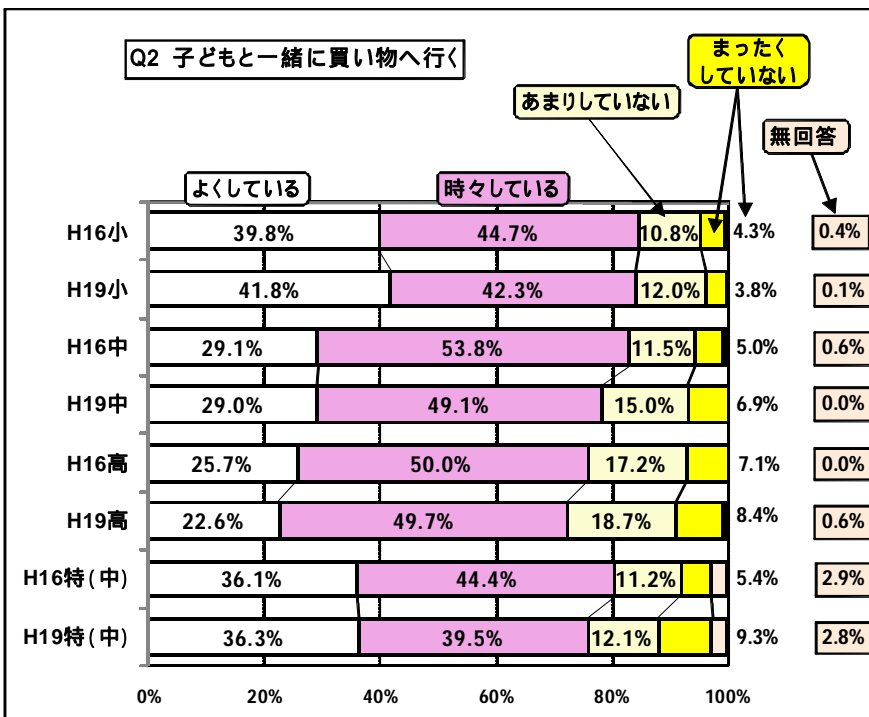
【本調査における関連項目】

- P24 保護者2「子どもと買い物へ行く」
- P25 保護者3「子どもとスポーツをする」

保護者2 子どもと一緒に買い物へ行く

小・中・高・特  
Q2・Q2・Q2・Q2

⇒ 中・特別支援学校で減少傾向



【概要】

16年度調査と同様に、学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少し、機会が少なくなる傾向にある。また、中・特別支援学校では16年度調査と比較して、肯定的な割合が減少している。

肯定的な割合

- 小 84.1% (0.4% 減)
- 中 78.1% (4.8% 減)
- 高 72.3% (3.4% 減)
- 特 75.8% (4.7% 減)

( )は16年度調査との差

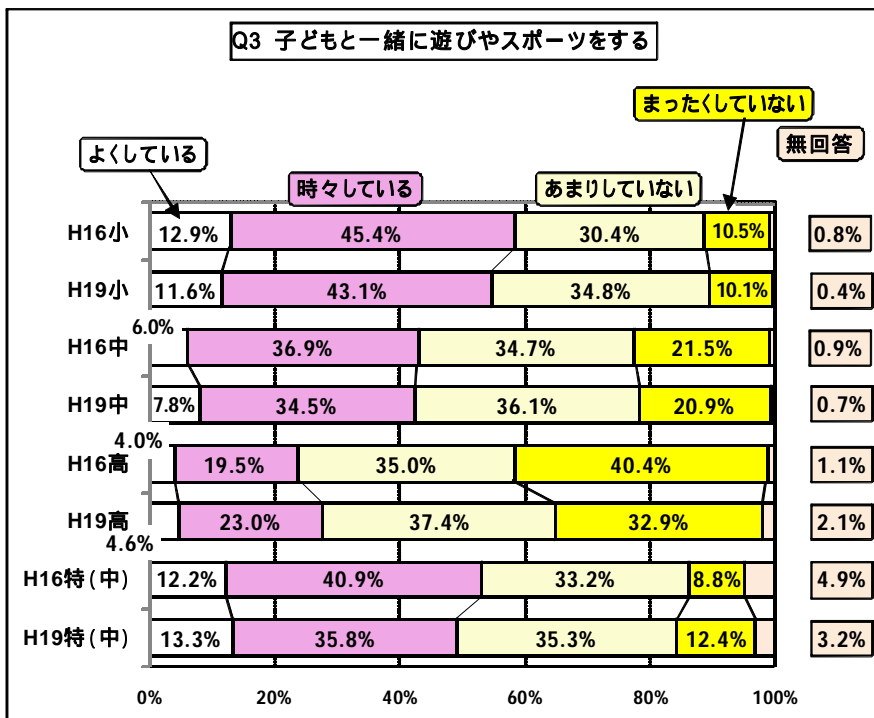
【本調査における関連項目】

- P24 保護者1「子どもと家事をする」
- P25 保護者3「子どもとスポーツをする」

保護者3 子どもと一緒に遊びやスポーツをする

⇒ 学年が上がるにつれて機会が少なくなる傾向

小・中・高・特  
Q3・Q3・Q3・Q3



【概要】

16年度調査と同様に、学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少し、「子どもと一緒に遊びやスポーツをする機会」が少なくなる傾向にある。

肯定的な割合

- 小 54.7% (58.3%)
- 中 42.3% (42.9%)
- 高 27.6% (23.5%)
- 特 49.1% (53.1%)

( )は、16年度調査の肯定的な割合

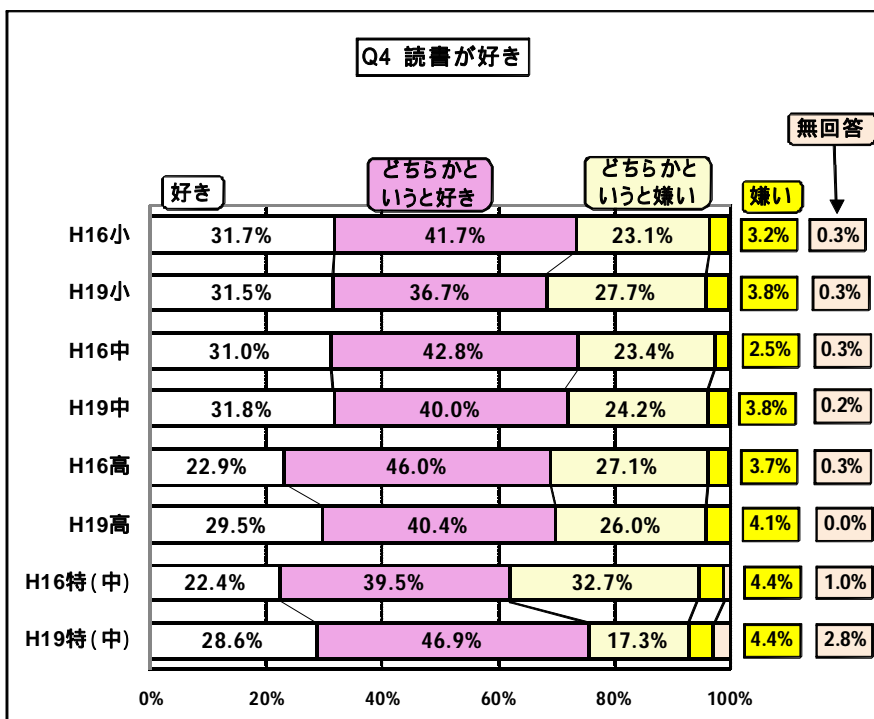
【本調査における関連項目】

- P24 保護者1「子どもと家事をする」
- P24 保護者2「子どもと買い物へ行く」

保護者4 保護者の読書好き

⇒ 各校種ともに、肯定的な割合が70%を上回る

小・中・高・特  
Q4・Q4・Q4・Q4



【概要】

児童生徒の「読書好き」の回答傾向と同様に、各校種で肯定的な割合が、否定的な割合を上回っている。また、16年度調査と比較して特別支援学校では、肯定的な割合が大きく増加している。なお、本調査における各校種の児童生徒の回答割合とほぼ同じになっている。

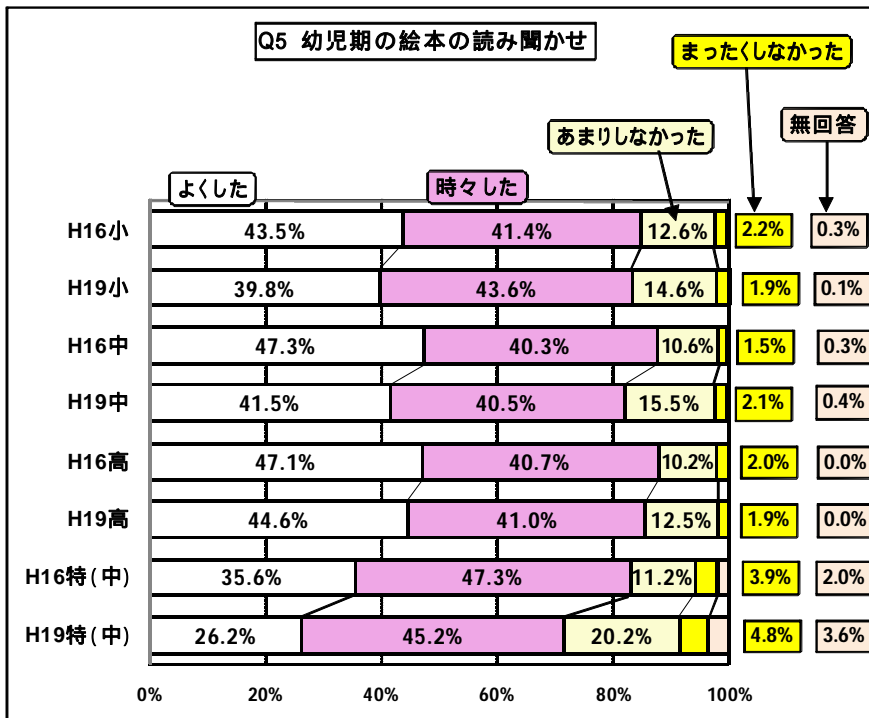
【本調査における関連項目】

- P7 児童生徒5「読書が好き」

保護者5 幼児期の絵本の読み聞かせ

⇒ 特別支援学校で、肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q5・Q5・Q5・Q5



【概要】

16年度調査と比較して、特別支援学校では、肯定的な割合が特に減少している。小・中・高等学校では、肯定的な割合が、16年度調査と同様に80%を超えている。

肯定的な割合

小 83.4% (1.5% 減)

中 82.0% (5.6% 減)

高 85.6% (2.2% 減)

特 71.4% (11.5% 減)

( )は16年度調査との差

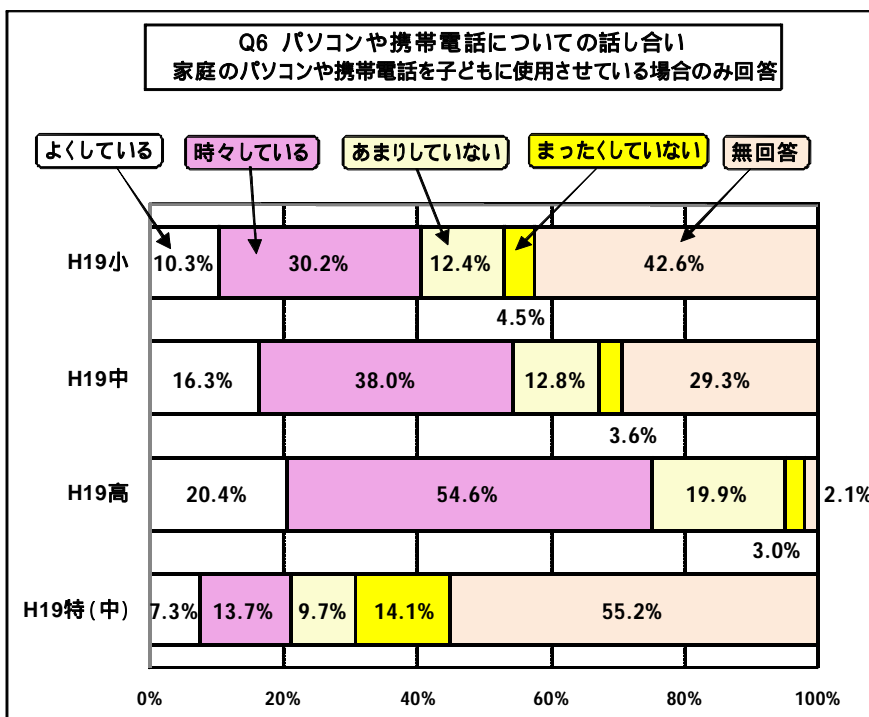
【本調査における関連項目】

P7 児童生徒5「読書が好き」

保護者6 パソコンや携帯電話についての話し合い

⇒ 学年が上がるにつれて肯定的な割合が増加

小・中・高・特  
Q6・Q6・Q6・Q6



【概要】

学年が上がるにつれて、肯定的な回答の「よくしている」「時々している」の割合が増加する傾向にある。学年が上がるにつれて、パソコンや携帯電話を使用する割合が多くなっていると推測される。

肯定的な割合

小 40.5%

中 54.3%

高 75.0%

特 21.0%

【本調査における関連項目】

P7 児童生徒6「パソコンの使用日数」

P8 児童生徒7「出会い系サイトへの接続経験」

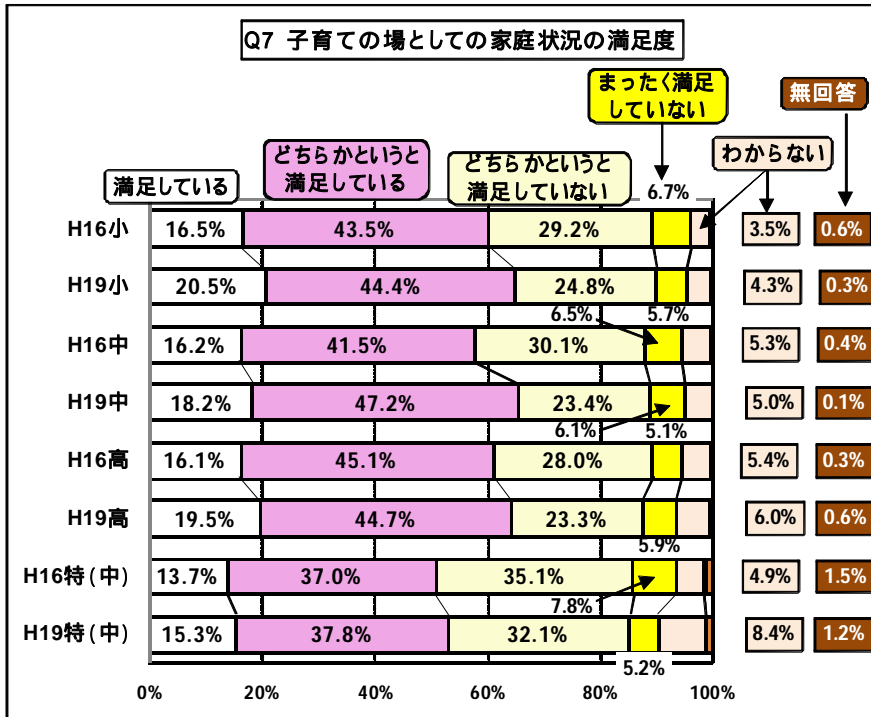
P23 児童生徒37「パソコンの用途」

P56 学級担任29「情報モラルの指導の有無」

保護者7 子育ての場としての家庭状況の満足度

⇒ 小・中・高等学校で，肯定的な割合が60%以上

小・中・高・特  
Q7・Q7・Q7・Q7



【概要】

16年度調査と比較して，肯定的な割合が小・中学校で増加している。また，小・中・高等学校で肯定的な割合が60%以上となっている。その一方，特別支援学校では，肯定的な割合が50%程度となっている。

肯定的な割合

小 64.9% (4.9% 増)

中 65.4% (7.7% 増)

高 64.2% (3.0% 増)

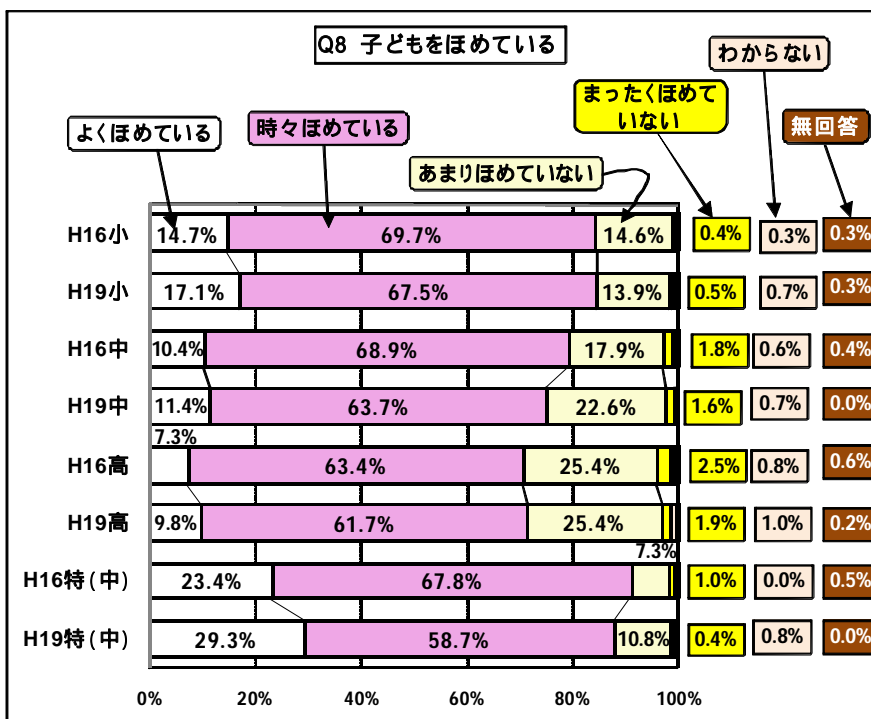
特 53.1% (2.4% 増)

( )は16年度調査との差

保護者8 子どもをほめている

⇒ 学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q8・Q8・Q8・Q8



【概要】

16年度調査と同様に，学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少する傾向にある。また，小・高等学校では，各回答の割合が16年度調査とほぼ同じとなっている。

肯定的な割合

小 84.6% (0.2% 増)

中 75.1% (4.2% 減)

高 71.5% (0.8% 増)

特 88.0% (3.2% 減)

( )は16年度調査との差

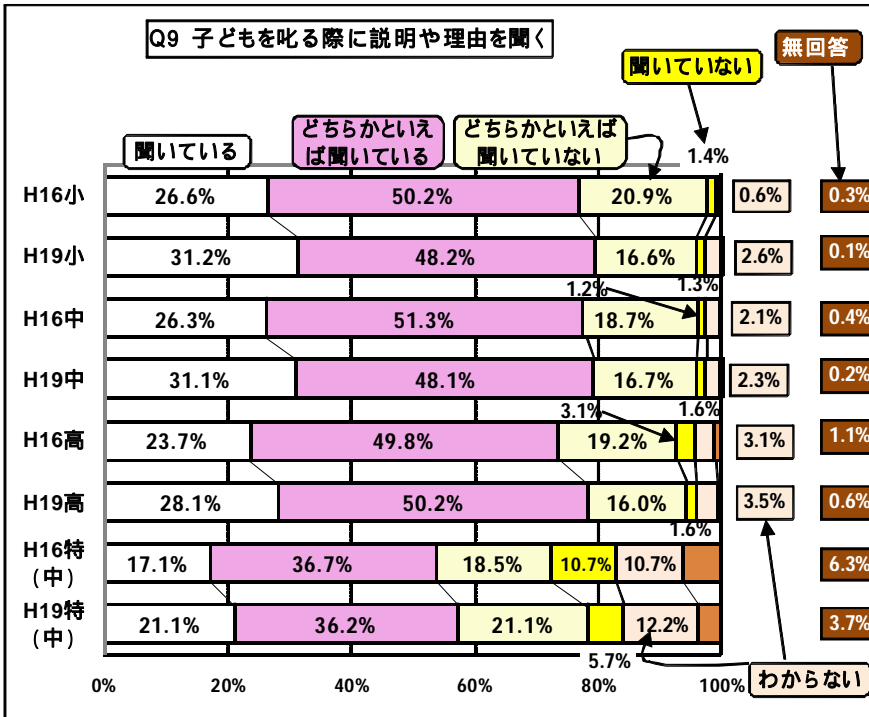
【本調査における関連項目】

P12 児童生徒15「家族がほめる」

保護者9 子どもを叱る際に説明や理由を聞く

⇒ 小・中・高等学校で，肯定的な割合が約80%

小・中・高・特  
Q9・Q9・Q9・Q9



【概要】

小・中・高等学校で，肯定的な割合が，ほぼ80%となっている。また，16年度調査と比較して高等学校で肯定的な割合が増加している。

肯定的な割合

- 小 79.4% (2.6% 増)
- 中 79.2% (1.6% 増)
- 高 78.3% (4.8% 増)
- 特 57.3% (3.5% 増)

( )は16年度調査との差  
なお，同様の調査における児童生徒の意識と比較すると，各校種ともに親子間の意識に大きな差がある。

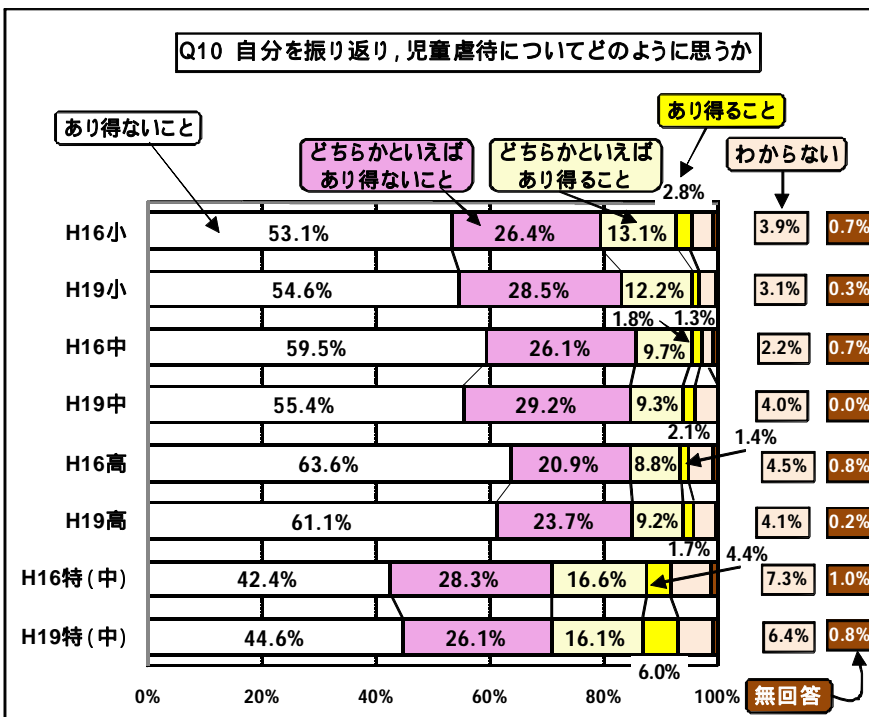
【本調査における関連項目】

P12 児童生徒16「家族は理由を聞いて叱る」

保護者10 自分を振り返り，児童虐待についてどのように思うか

⇒ 各校種ともに，16年度調査と同様の傾向

小・中・高・特  
Q10・Q10・Q10・Q10



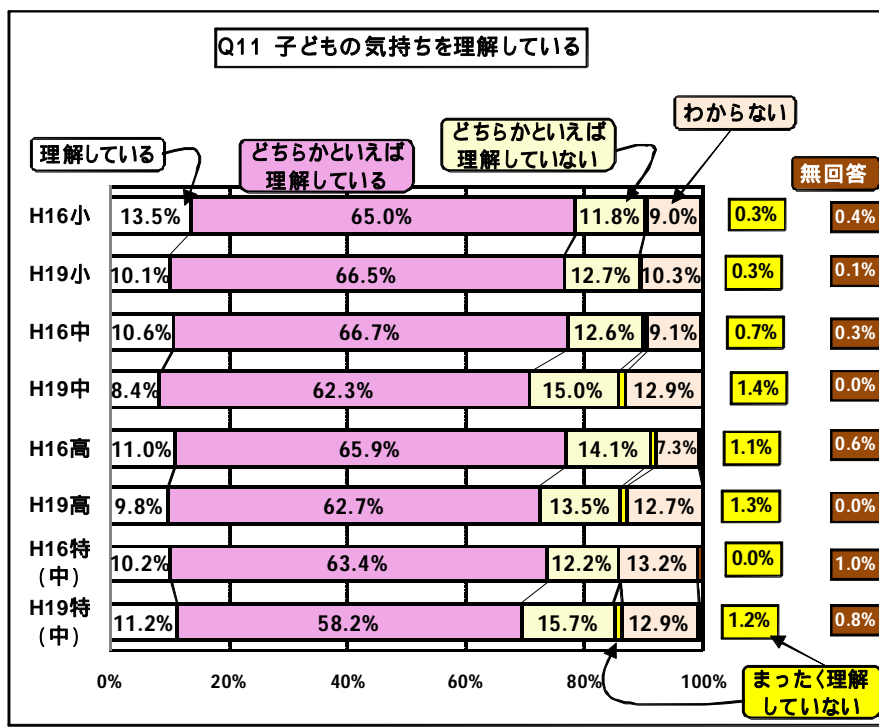
【概要】

各校種ともに，16年度調査と同様の傾向となっている。また，小・中・高等学校では，「あり得ないこと」，「どちらか」とあり得ないこと」を回答した割合が，80%以上となっている。なお，特別支援学校では，小・中・高等学校と比較してその割合が少なく70%程度となっている。

【本調査における関連項目】

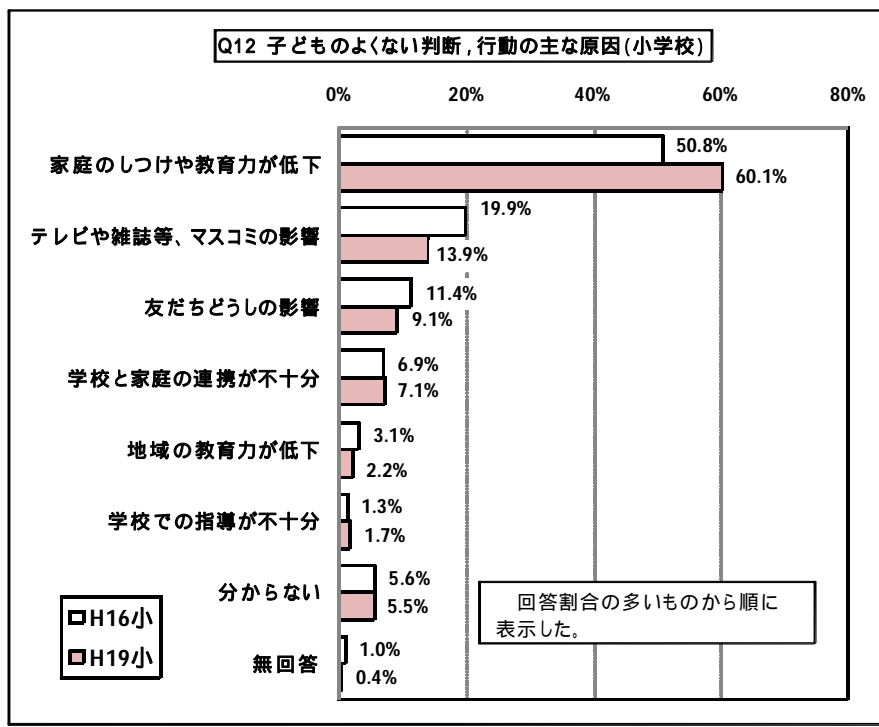
- P13 児童生徒17「厳しく叱られたことがある」
- P43 学級担任3「最近の傾向-厳しく叱られている子ども-」

保護者11 子どもの気持ちを理解している  
 ⇒ 中学校で肯定的な割合が減少  
 小・中・高・特  
 Q11・Q11・Q11・Q11



【概要】  
 各校種ともに、肯定的な割合が、ほぼ70%になっている。16年度調査と比較して、中学校では肯定的な割合が減少している。  
 肯定的な割合  
 小 76.6% (1.9% 減)  
 中 70.7% (6.6% 減)  
 高 72.5% (4.4% 減)  
 特 69.4% (4.2% 減)  
 ( )は16年度調査との差  
 なお、同様の調査における児童生徒の意識と比較すると、各校種ともに親子間の意識に大きな差がある。  
 【本調査における関連項目】  
 P13 児童生徒18「家族の理解」

保護者12 子どものよくない判断，行動の原因（小学校）  
 ⇒ 「家庭のしつけや教育力の低下」が増加  
 小  
 Q12



【概要】  
 「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が増加している。  
 「家庭のしつけや教育力の低下」の割合  
 小 60.1% ( 9.3% 増)  
 中 58.2% (15.9% 増)  
 高 56.6% (20.1% 増)  
 特 56.2% (13.3% 増)  
 ( )は16年度調査との差  
 なお、同じ質問項目において、小学校学級担任が「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げた割合とほぼ同じになっている。  
 【本調査における関連項目】  
 P30～31 保護者13～15「子どものよくない判断，行動の原因」  
 P46 学級担任10「子どものよくない判断，行動の原因」

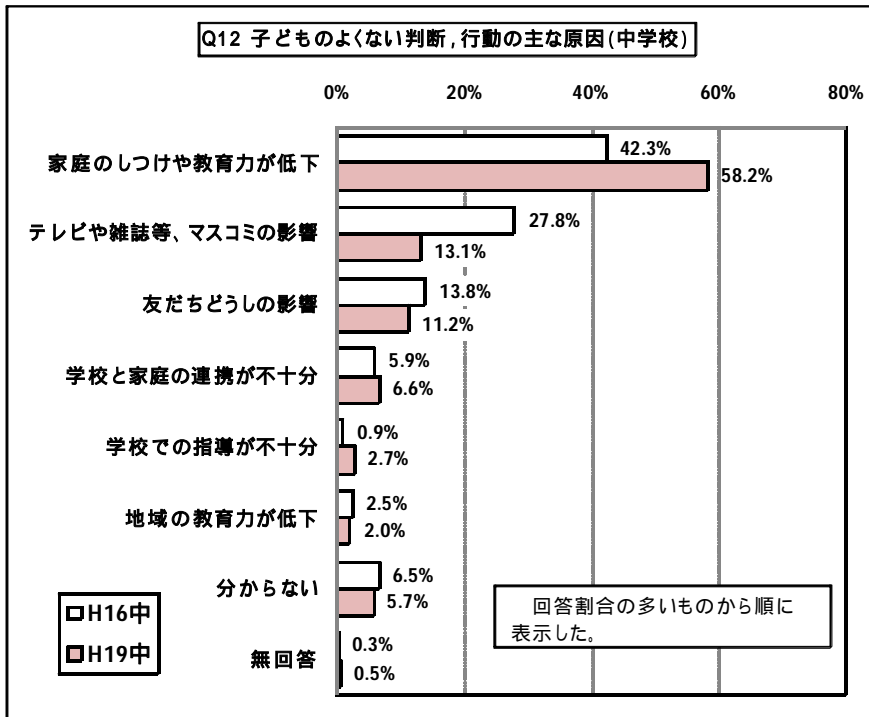


保護者13 子どものよくない判断，行動の原因（中学校）

中

⇒ 「家庭のしつけや教育力の低下」が大きく増加

Q12



【概要】

「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が大きく増加している。その一方で、「テレビや雑誌等のマスコミの影響」を原因に挙げる割合が大きく減少している。

「テレビや雑誌等のマスコミの影響」の割合

小 13.9% ( 6.0% 減)

中 13.1% (14.7% 減)

高 17.0% (13.2% 減)

特 11.6% ( 3.0% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P29～31 保護者12・14・15「子どものよくない判断，行動の原因」

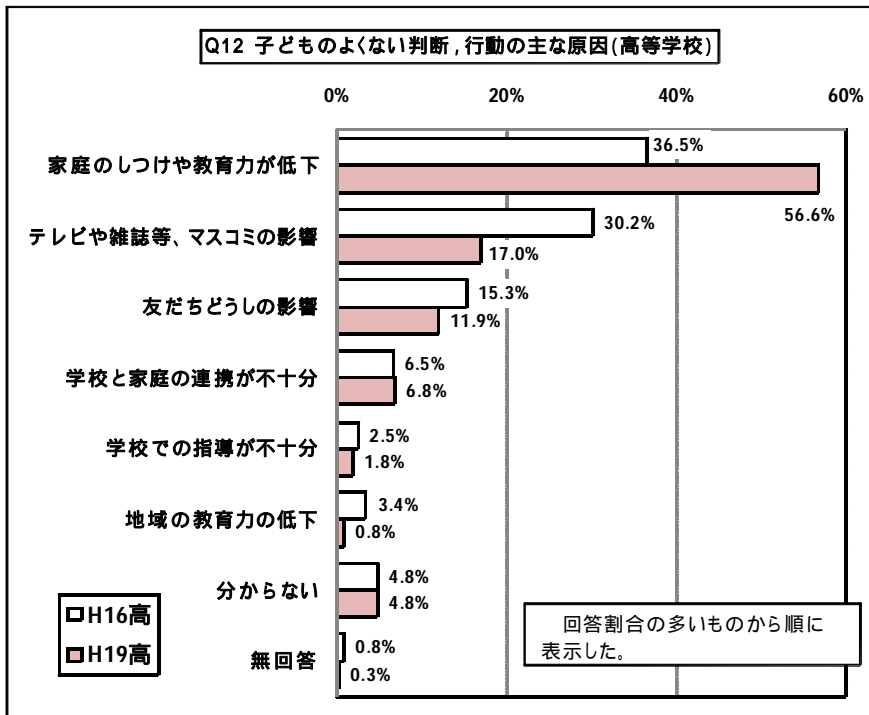
P46 学級担任10「子どものよくない判断，行動の原因」

保護者14 子どものよくない判断，行動の原因（高等学校）

高

⇒ 「家庭のしつけや教育力の低下」が大きく増加

Q12



【概要】

「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が大きく増加している。また，その変化が，他の校種に比較して最も大きい。一方，「テレビや雑誌等のマスコミの影響」を原因に挙げる割合が大きく減少している。

「家庭のしつけや教育力の低下」の割合

小 60.1% ( 9.3% 増)

中 58.2% (15.9% 増)

高 56.6% (20.1% 増)

特 56.2% (13.3% 増)

( )は16年度調査との差

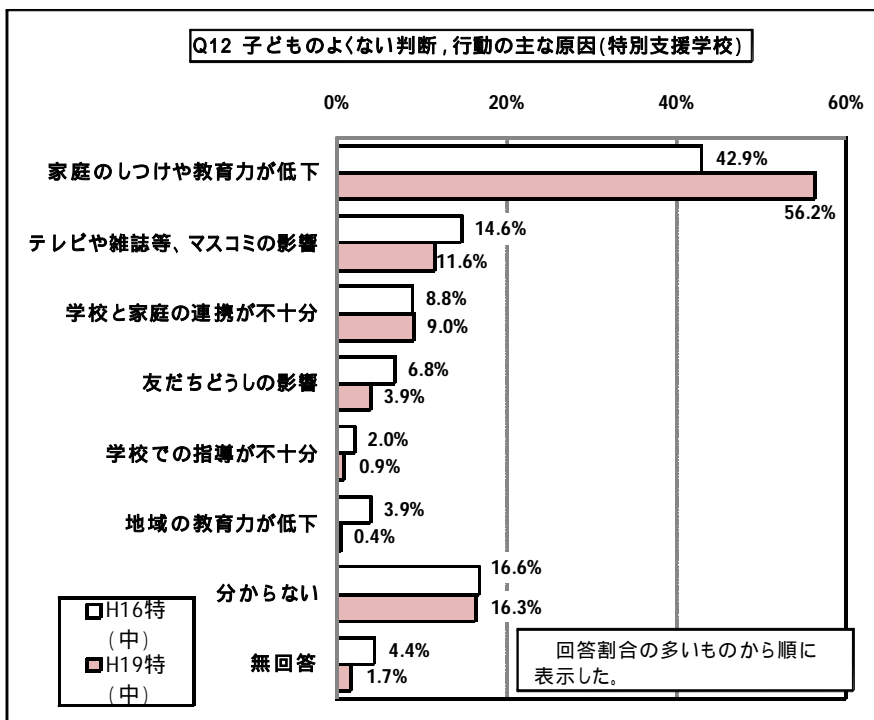
【本調査における関連項目】

P29～31 保護者12・13・15「子どものよくない判断，行動の原因」

P46 学級担任10「子どものよくない判断，行動の原因」

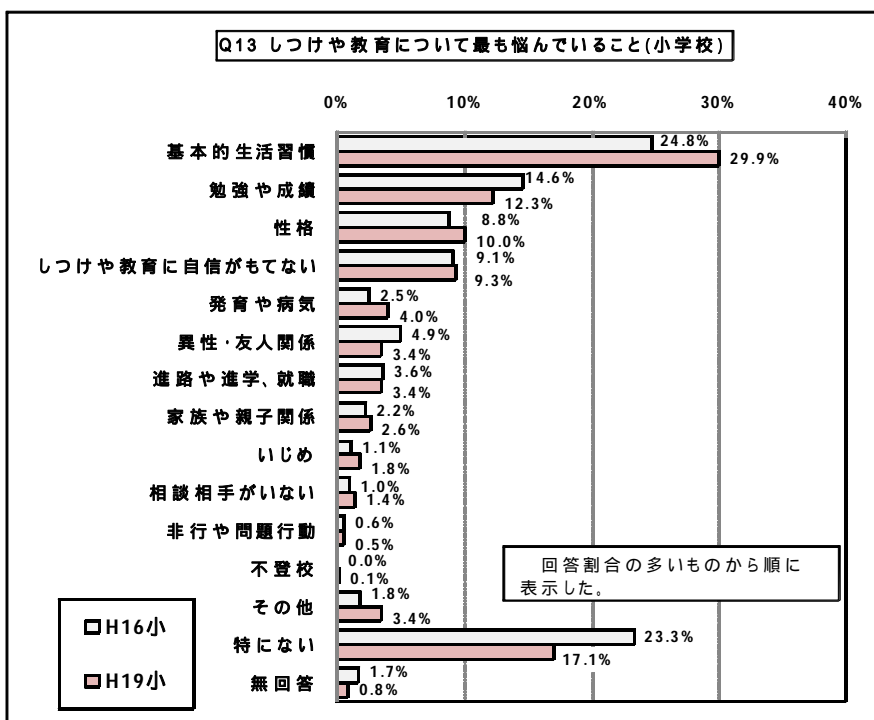


保護者15 子どものよくない判断，行動の原因（特別支援学校）特  
 ⇒ 「家庭のしつけや教育力の低下」が大きく増加Q12



**【概要】**  
 他の校種と同様に、「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が、大きく増加している。  
 「家庭のしつけや教育力の低下」の割合  
 小 60.1% (9.3% 増)  
 中 58.2% (15.9% 増)  
 高 56.6% (20.1% 増)  
 特 56.2% (13.3% 増)  
 ( )は16年度調査との差  
**【本調査における関連項目】**  
 P29～30 保護者12～14「子どものよくない判断，行動の原因」  
 P46 学級担任10「子どものよくない判断，行動の原因」

保護者16 しつけや教育について最も悩んでいること（小学校）小  
 ⇒ 「基本的生活習慣」が最も多く，増加傾向Q13



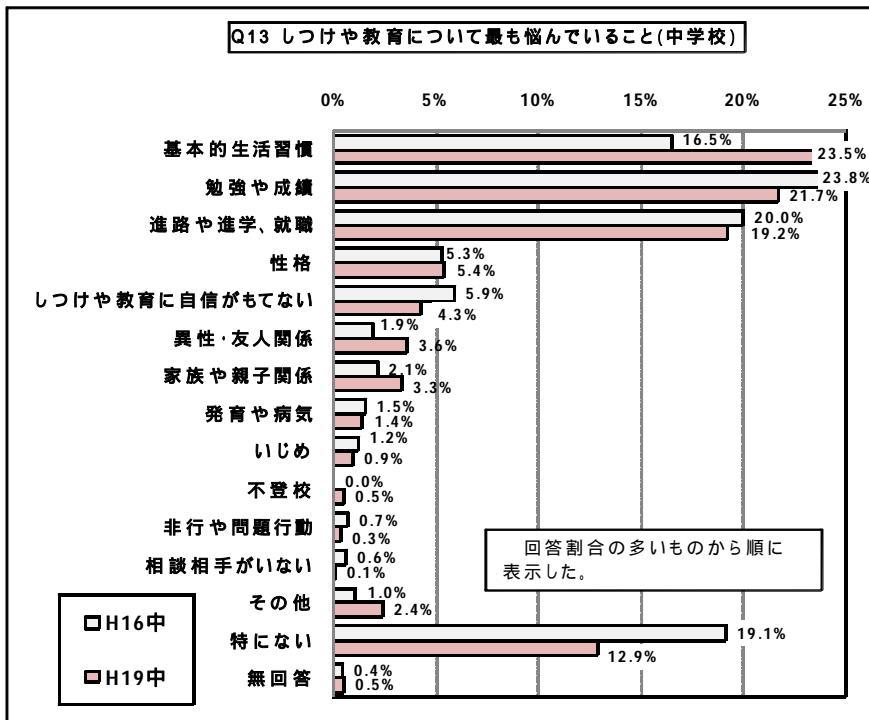
**【概要】**  
 「基本的生活習慣」の悩みを挙げる割合が最も多く，ほぼ30%になっている。他の校種と比較してその割合が最も多い。  
 「基本的生活習慣」の割合  
 小 29.9% (5.1% 増)  
 中 23.5% (7.0% 増)  
 高 17.0% (4.3% 増)  
 特 14.5% (13.3% 減)  
 ( )は16年度調査との差  
**【本調査における関連項目】**  
 P32～33 保護者17～19「しつけや教育について最も悩んでいること」

保護者17 しつけや教育について最も悩んでいること(中学校)

中

⇒ 「基本的生活習慣」が最も多く、増加傾向

Q13



【概要】

「基本的生活習慣」の悩みを挙げる割合が増加し、最も多い。また、「勉強や成績」と「進路や進学、就職」についての悩みも20%程度を占める。なお、「勉強や成績」の割合は、他の校種に比較して最も多い。

「勉強や成績」の割合

小 12.3% (2.3% 減)

中 21.7% (2.1% 減)

高 9.7% (0.2% 減)

特 2.6% (0.3% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

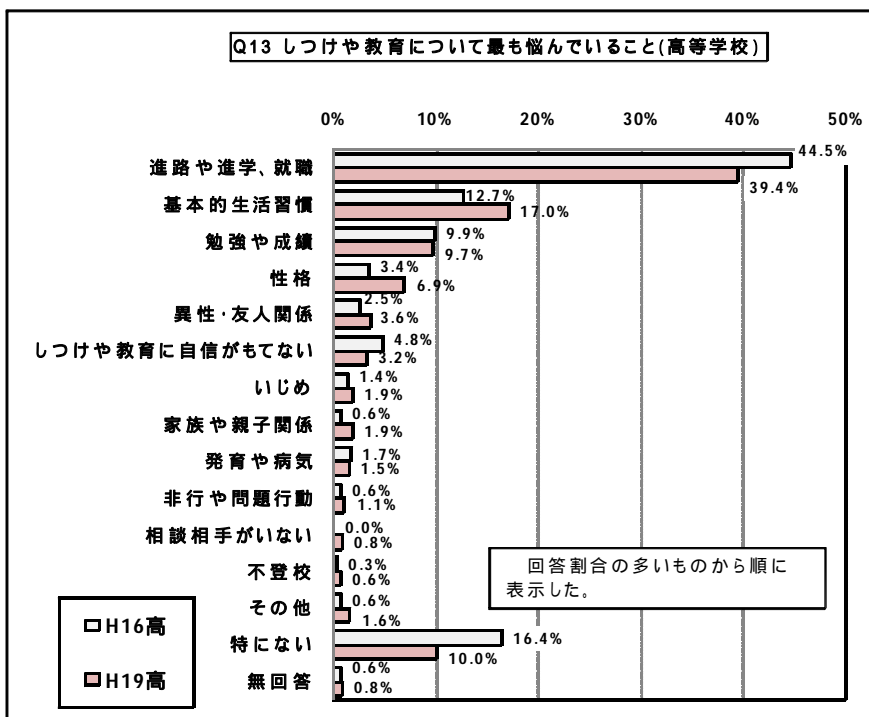
P31～33 保護者16・18・19「しつけや教育について最も悩んでいること」

保護者18 しつけや教育について最も悩んでいること(高等学校)

高

⇒ 「進路や進学、就職」が最も多く、約40%

Q13



【概要】

「進路や進学、就職」の悩みを挙げる割合が、16年度調査と比較して減少しているものの最も多い。また、その割合が、他の校種に比較して最も多い。

「進路や進学、就職」の割合

小 3.4% (0.2% 減)

中 19.2% (0.8% 減)

高 39.4% (5.1% 減)

特 30.1% (1.0% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

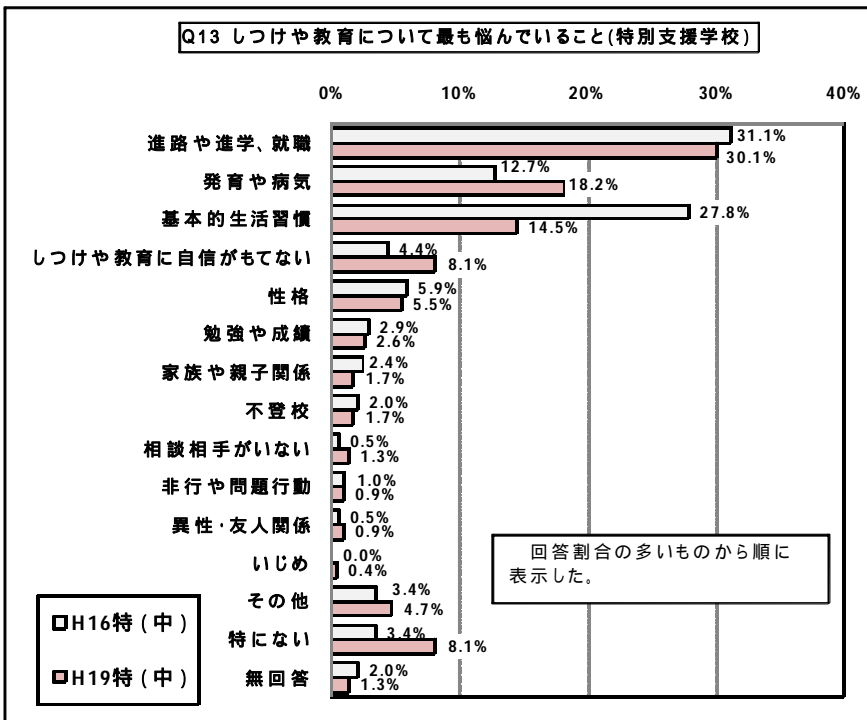
P31～33 保護者16・17・19「しつけや教育について最も悩んでいること」

保護者19 しつけや教育について最も悩んでいること（特別支援学校）

特

⇒ 「進路や進学，就職」が最も多く，約30%

Q13



【概要】

「進路や進学，就職」の悩みを挙げる割合が最も多く，ほぼ30%となっている。また，「発達や病気」に関する割合も増加している。その一方，他の校種の傾向と違い，「基本的な生活習慣」の割合が減少している。

【本調査における関連項目】

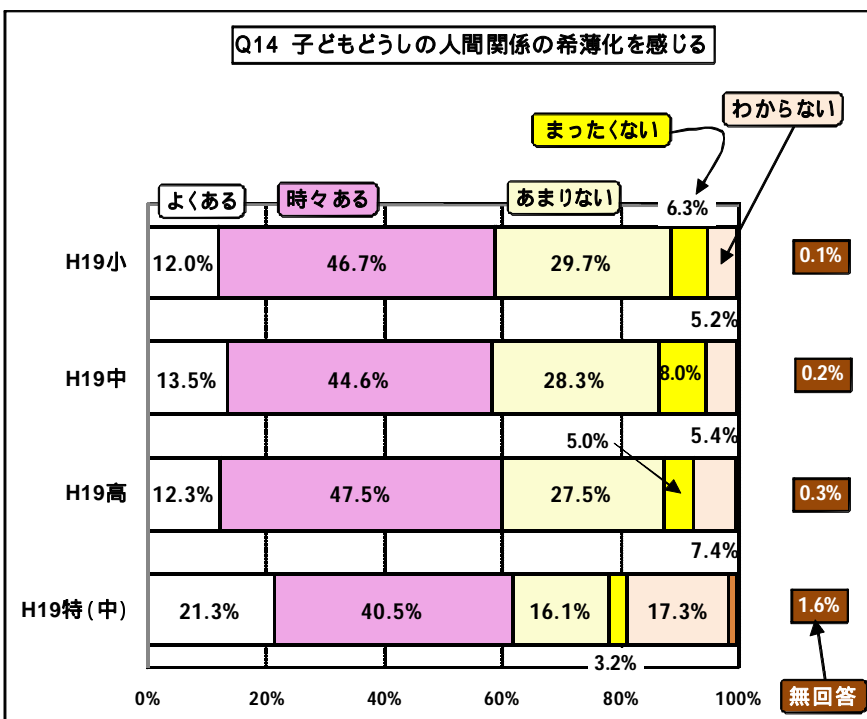
P31～33 保護者16・18・19「しつけや教育について最も悩んでいること」

保護者20 子どもどうしの人間関係の希薄化を感じる

小・中・高・特

⇒ 各校種ともに肯定的な割合が約60%

Q14・Q14・Q14・Q14



【概要】

各校種ともに肯定的な割合が，ほぼ60%となっている。その中でも，特別支援学校では「よくある」と回答した割合が他の校種に比較して多く，20%を超えている。

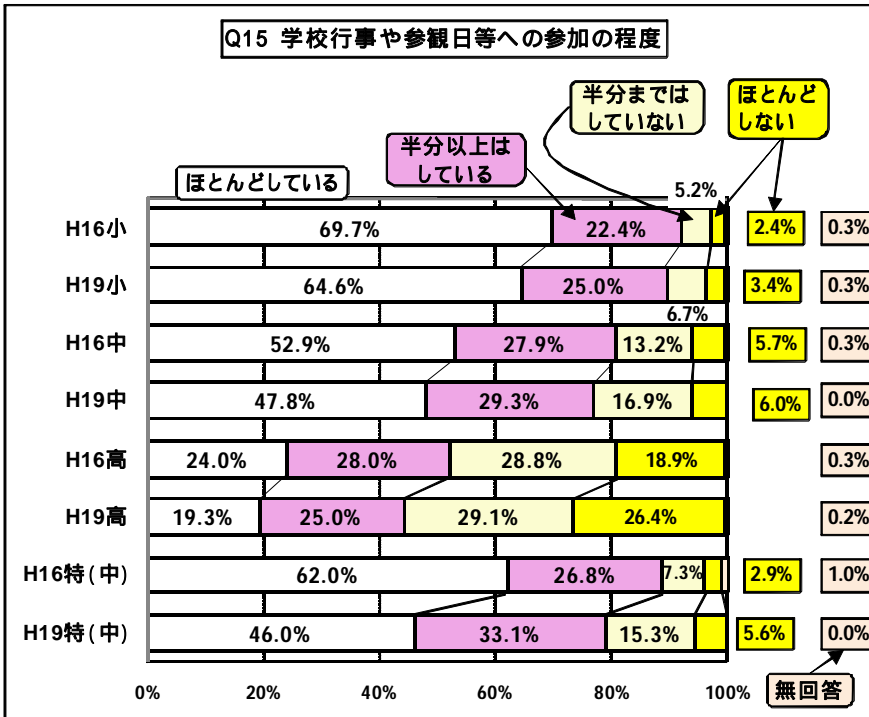
【本調査における関連項目】

P15 児童生徒22「悩みごと相談できる友だち」  
P16～18 児童生徒23～27「友だちとの関係」  
P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

保護者21 学校行事や参観日等への参加の程度

⇒ 高・特別支援学校で，参加の程度が減少

小・中・高・特  
Q15・Q15・Q15・Q15



【概要】

16年度調査と同様に，学年が上がるにつれて出席の程度が減少する傾向にある。「半分以上の参加」を回答した割合が，高・特別支援学校で減少している。また，高等学校では，「ほとんど参加しない」を回答した割合が増加している。

「半分以上の参加」の割合

小 89.6% (2.5% 減)

中 77.1% (3.7% 減)

高 44.3% (7.7% 減)

特 79.1% (9.7% 減)

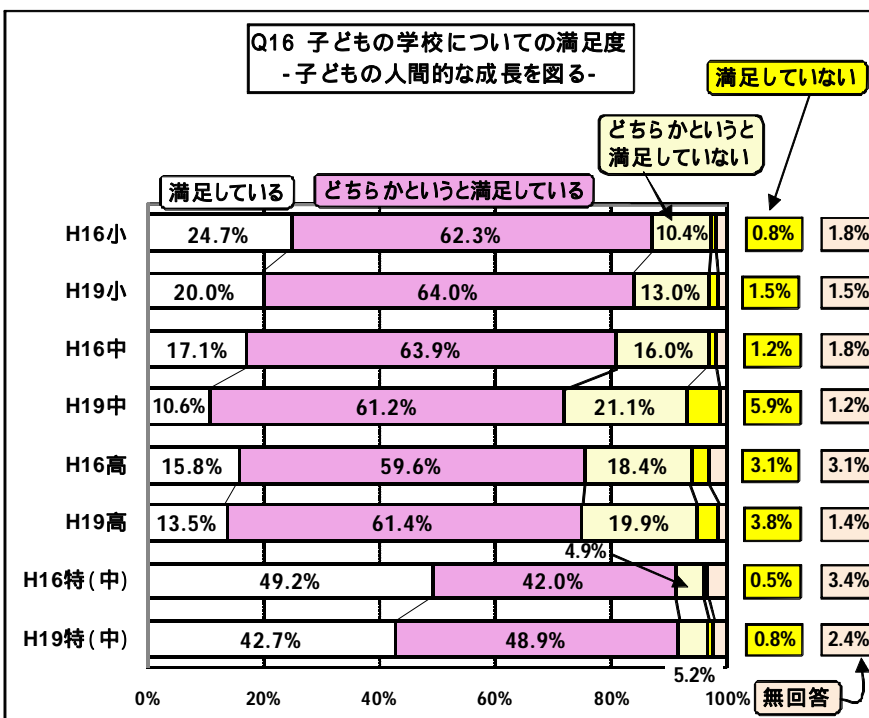
( )は16年度調査との差

保護者22 子どもの学校についての満足度

- 子どもの人間的な成長を図る -

⇒ 中学校で，肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q16・Q16・Q16・Q16



【概要】

16年度調査と比較して，中学校では，肯定的な割合が減少しているが，他の校種では同様の結果となっている。特別支援学校では，前回調査と同様に，肯定的な割合が，ほぼ90%となっている。

肯定的な割合

小 84.0% (3.0% 減)

中 71.8% (9.2% 減)

高 74.9% (0.5% 減)

特 91.6% (0.4% 増)

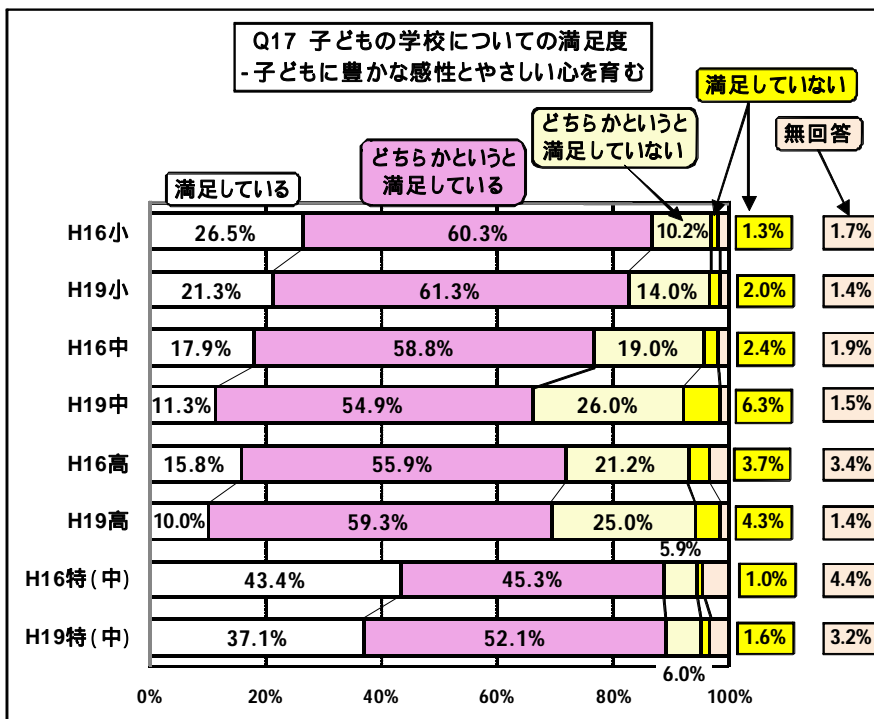
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P35～38 保護者23～29「子どもの学校の満足度」

保護者23 子どもの学校についての満足度  
 - 子どもに豊かな感性とやさしい心を育む -  
 ⇒ 中学校で、肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q17・Q17・Q17・Q17



【概要】

16年度調査と比較して、中学校では、肯定的な割合が減少しているが、他の校種では同様の結果となっている。特別支援学校では、前回調査と同様に、肯定的な割合が、ほぼ90%となっている。

肯定的な割合

小 82.6% (4.2% 減)  
 中 66.2% (10.5% 減)  
 高 69.3% (2.4% 減)  
 特 89.2% (0.5% 増)

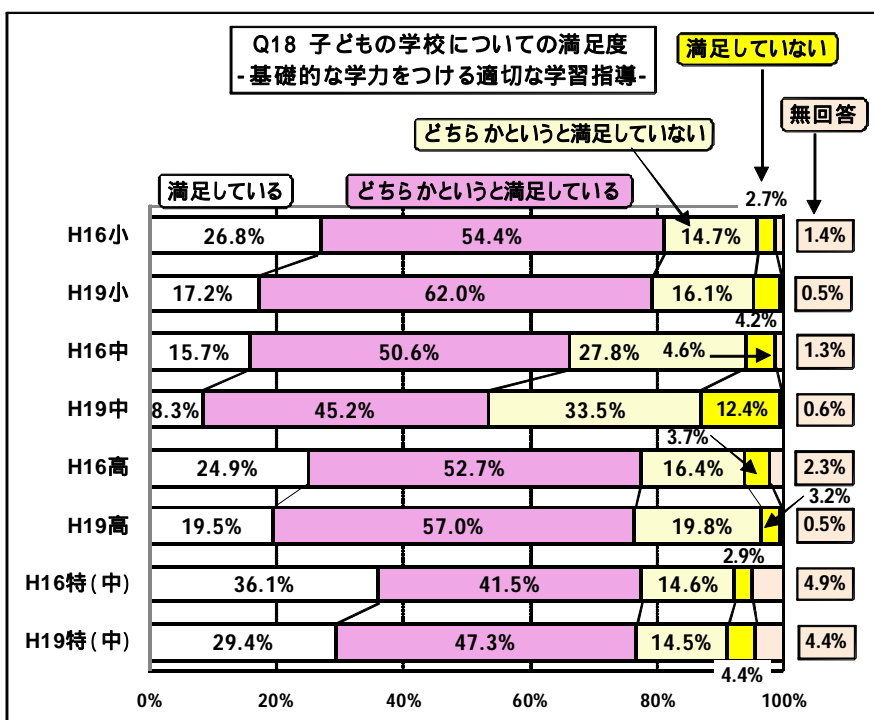
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P34～38 保護者22・24～29「子どもの学校の満足度」

保護者24 子どもの学校についての満足度  
 - 基礎的な学力をつける適切な学習指導 -  
 ⇒ 中学校で、肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q18・Q18・Q18・Q18



【概要】

16年度調査と比較して、中学校では、肯定的な割合が減少しているが、他の校種では同様の結果となっている。小・高・特別支援学校では、肯定的な割合が80%程度となっている。

肯定的な割合

小 79.2% (2.0% 減)  
 中 53.5% (12.8% 減)  
 高 76.5% (1.1% 減)  
 特 76.7% (0.9% 減)

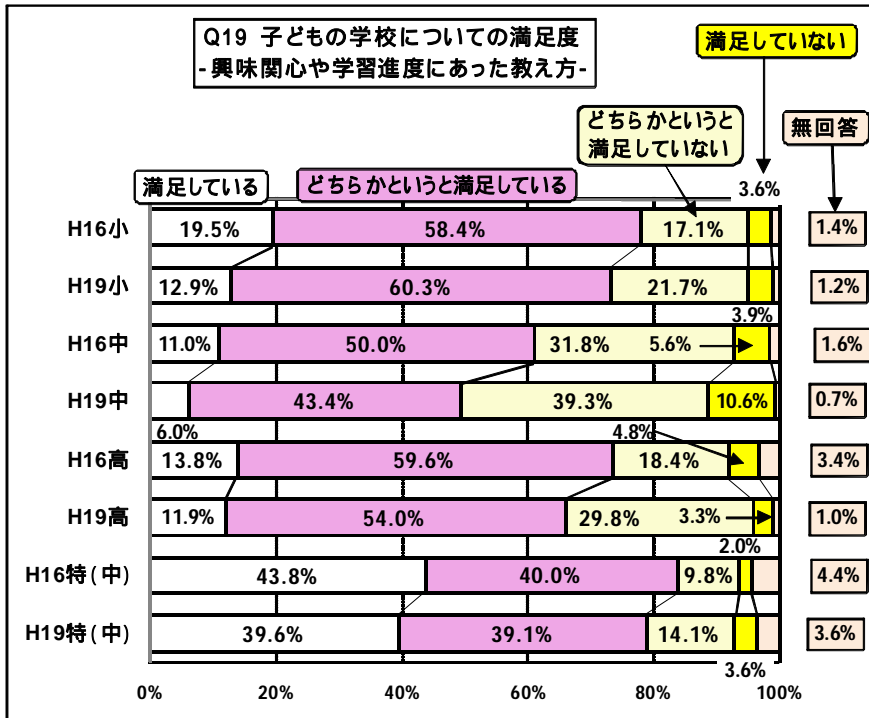
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P34～38 保護者22・23・25～29「子どもの学校の満足度」

保護者25 子どもの学校についての満足度  
 - 子どもの興味関心や学習進度にあった教え方 -  
 ⇒ 各校種で，肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q19・Q19・Q19・Q19



【概要】

16年度調査と比較して，各校種で肯定的な割合が減少している。特に中学校においてその傾向が顕著となっている。

肯定的な割合

小 73.2% ( 4.7% 減)

中 49.4% (11.6% 減)

高 65.9% ( 7.5% 減)

特 78.7% ( 5.1% 減)

( )は16年度調査との差

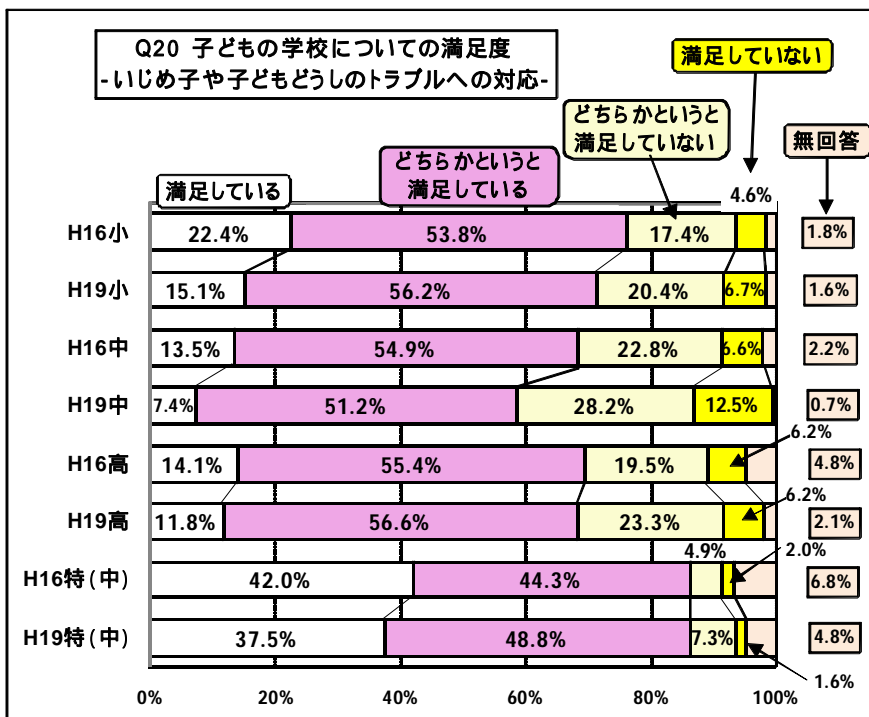
【本調査における関連項目】

P34～38 保護者22～24・26～29

「子どもの学校の満足度」

保護者26 子どもの学校についての満足度  
 - いじめや子どもどうしのトラブルへの対応 -  
 ⇒ 中学校で，肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q20・Q20・Q20・Q20



【概要】

16年度調査と比較して，中学校では，肯定的な割合が減少している。特別支援学校では，肯定的な割合が他の校種よりも多く，85%を超えている。

肯定的な割合

小 71.3% (4.9% 減)

中 58.6% (9.8% 減)

高 68.4% (1.1% 減)

特 86.3% (増減なし)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

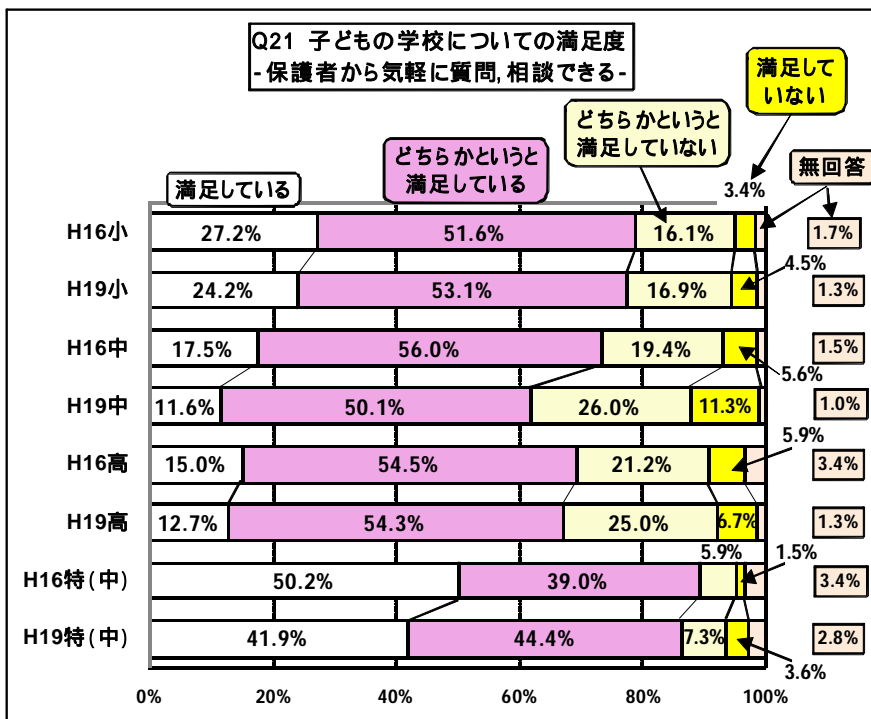
P34～38 保護者22～25・27～29

「子どもの学校の満足度」



保護者27 子どもの学校についての満足度  
 - 保護者から気軽に質問, 相談できる -  
 ⇒ 中学校で, 肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q21・Q21・Q21・Q21



【概要】

16年度調査と比較して, 中学校では, 肯定的な割合が減少している。特別支援学校では, 肯定的な割合が他の校種よりも多く85%を超えている。

肯定的な割合

小 77.3% ( 1.5% 減)  
 中 61.7% (11.8% 減)  
 高 67.0% ( 2.5% 減)  
 特 86.3% ( 2.9% 減)

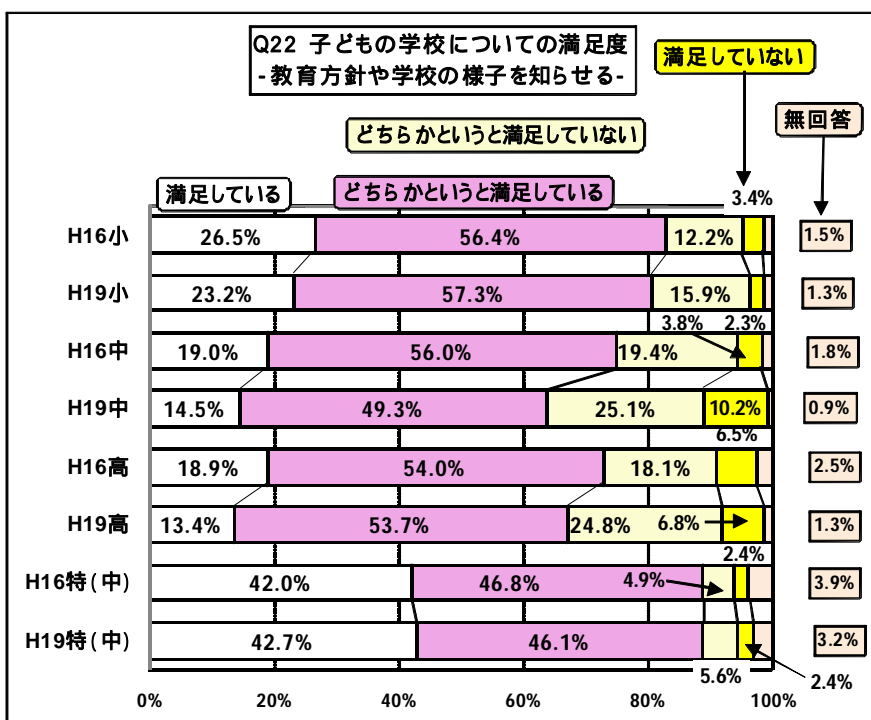
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P34 ~ 38 保護者22 ~ 26・28・29  
 「子どもの学校の満足度」

保護者28 子どもの学校についての満足度  
 - 教育方針や学校の様子を知らせる -  
 ⇒ 中・高等学校で, 肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
 Q22・Q22・Q22・Q22



【概要】

16年度調査と比較して, 中・高等学校では, 肯定的な割合が減少している。小・特別支援学校では, 肯定的な割合が80%を超えている。

肯定的な割合

小 80.5% ( 2.4% 減)  
 中 63.8% (11.2% 減)  
 高 67.1% ( 5.8% 減)  
 特 88.8% (増減なし)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P34 ~ 38 保護者22 ~ 27・29 「子どもの学校の満足度」

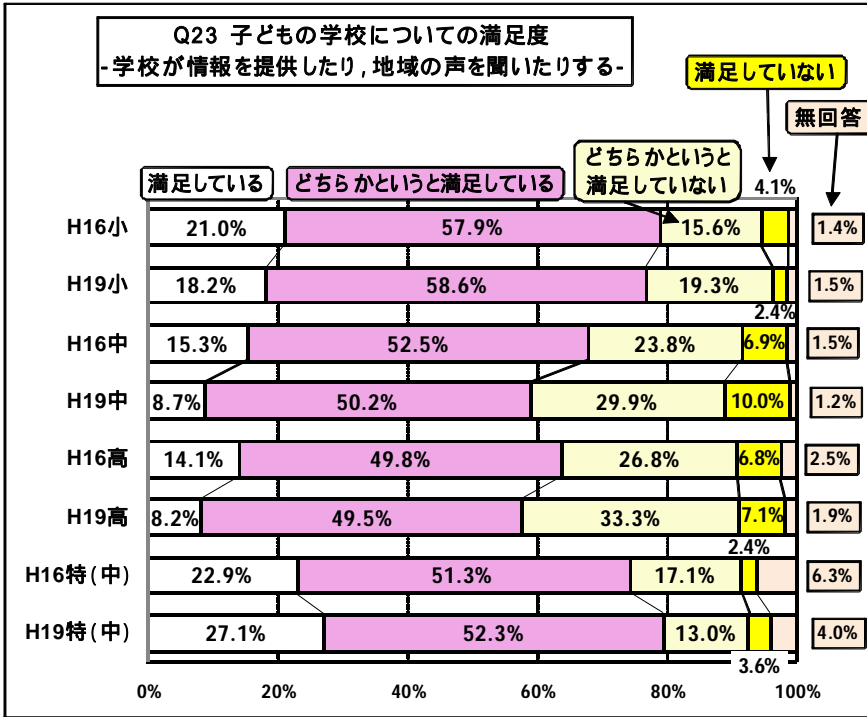
保護者29 子どもの学校についての満足度

- 学校が情報を提供したり，地域の声を聞いたりする -

小・中・高・特

⇒ 中・高等学校で肯定的な割合が減少し，特別支援学校で増加

Q23・Q23・Q23・Q23



【概要】

16年度調査と比較して，中・高等学校では，肯定的な割合が減少している。その一方特別支援学校では，肯定的な割合が増加し，80%を超えている。

肯定的な割合

小 76.8% (2.1% 減)

中 58.9% (8.9% 減)

高 57.7% (6.2% 減)

特 79.4% (5.2% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

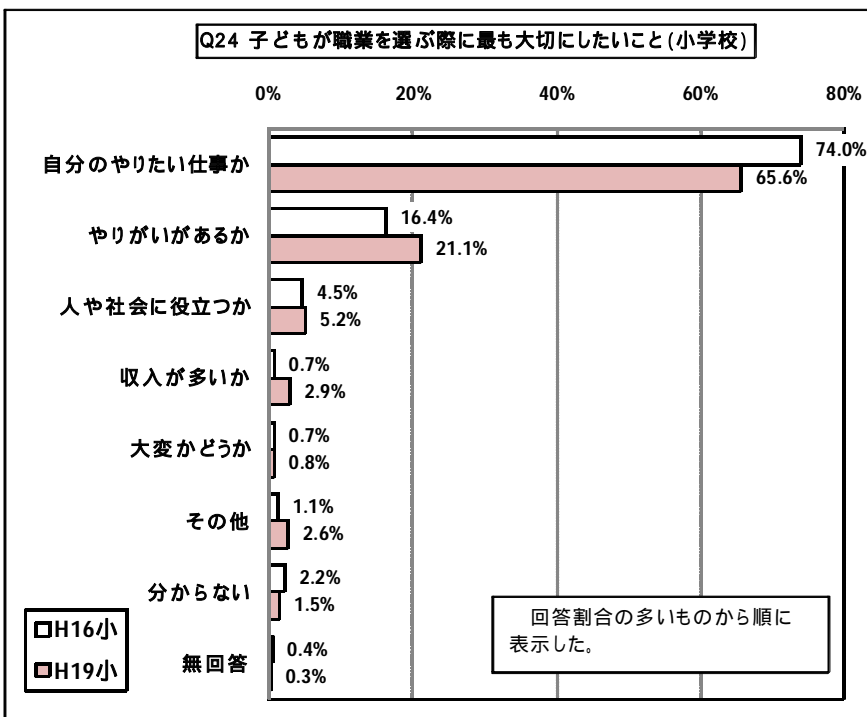
P34～37 保護者22～28「子どもの学校の満足度」

保護者30 子どもが職業を選ぶ際に最も大切にしたいこと(小学校)

小

⇒ 16年度調査と同様に，「自分のやりたい仕事か」が最多

Q24



【概要】

16年度調査同様に，「自分のやりたい仕事か」が最も多く，中・高等学校とほぼ同じ割合となっている。しかし，小学校ではその割合が減少している。

「自分のやりたい仕事か」の割合

小 65.6% (8.4% 減)

中 66.7% (2.6% 減)

高 65.8% (0.3% 減)

特 48.9% (1.3% 減)

( )は16年度調査との差

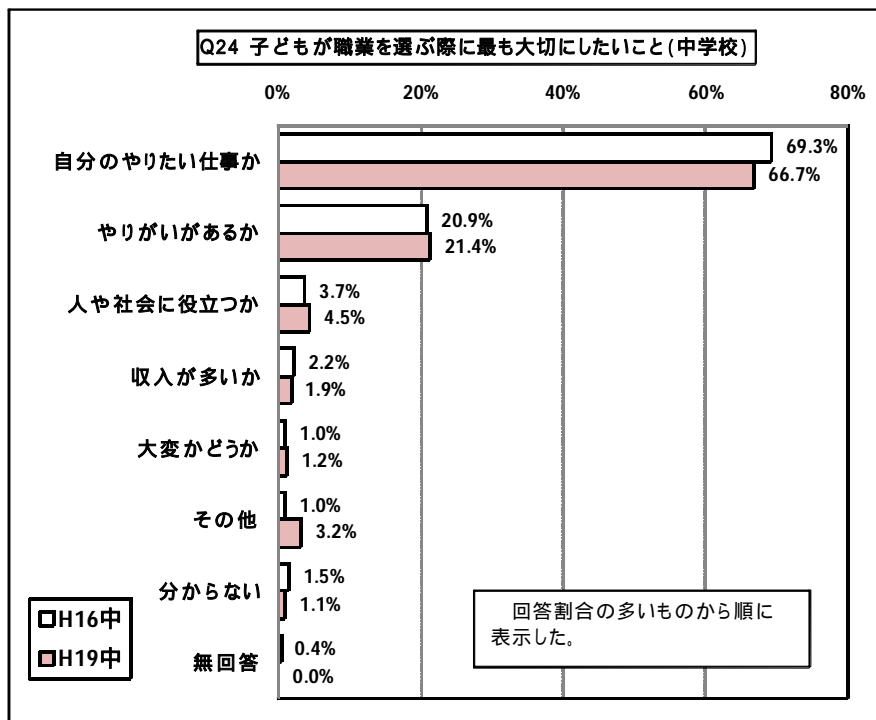
【本調査における関連項目】

P39～40 保護者31～33

「子どもが職業を選ぶ際に最も大切にしたいこと」

P18 児童生徒28「仕事を選ぶ際に大切にしたいこと」

保護者31 子どもが職業を選ぶ際に最も大切にしたいこと（中学校） 中  
 ⇒ 16年度調査と同様に、「自分のやりたい仕事か」が最多 Q24

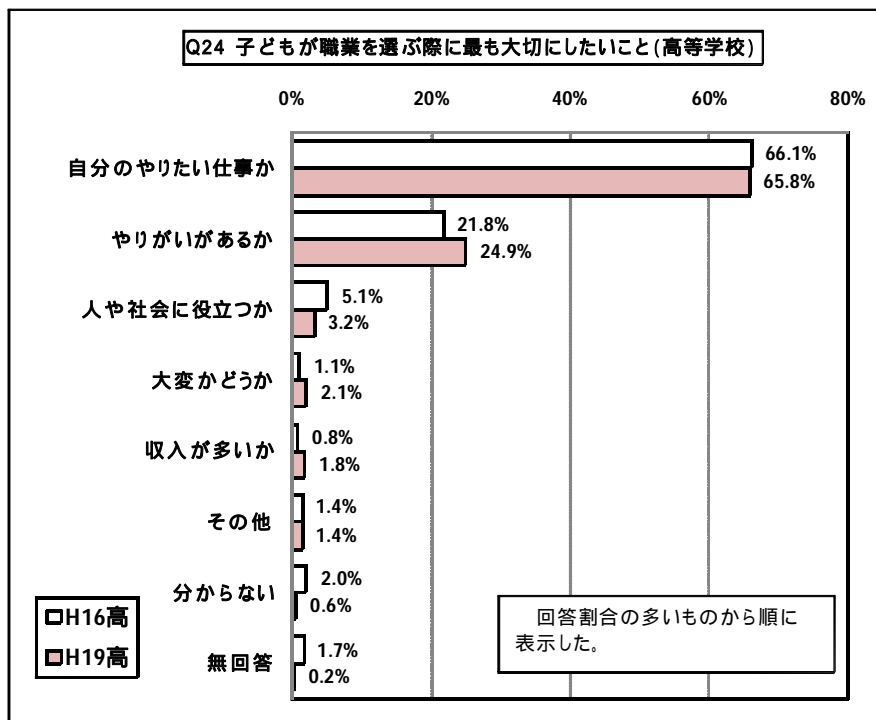


【概要】  
 16年度調査同様に、「自分のやりたい仕事か」が最も多く、小・高等学校とほぼ同じ割合となっている。また、「やりがいがあるか」の割合が、小・高等学校と同様に20%を超えている。

「やりがいがあるか」の割合  
 小 21.1% (4.7% 増)  
 中 21.4% (0.5% 増)  
 高 24.9% (3.1% 増)  
 特 15.5% (1.1% 減)

( )は16年度調査との差  
 【本調査における関連項目】  
 P38～40 保護者30・32・33 「子どもが職業を選ぶ際に大切にしたいこと」  
 P18 児童生徒28 「仕事を選ぶ際に大切にしたいこと」

保護者32 子どもが職業を選ぶ際に最も大切にしたいこと（高等学校） 高  
 ⇒ 16年度調査と同様に、「自分のやりたい仕事か」が最多 Q24



【概要】  
 16年度調査同様に、「自分のやりたい仕事か」が最も多く、小・中学校とほぼ同じ割合となっている。また、「やりがいがあるか」の割合が、他の校種と比較して最も多くなっている。

「やりがいがあるか」の割合  
 小 21.1% (4.7% 増)  
 中 21.4% (0.5% 増)  
 高 24.9% (3.1% 増)  
 特 15.5% (1.1% 減)

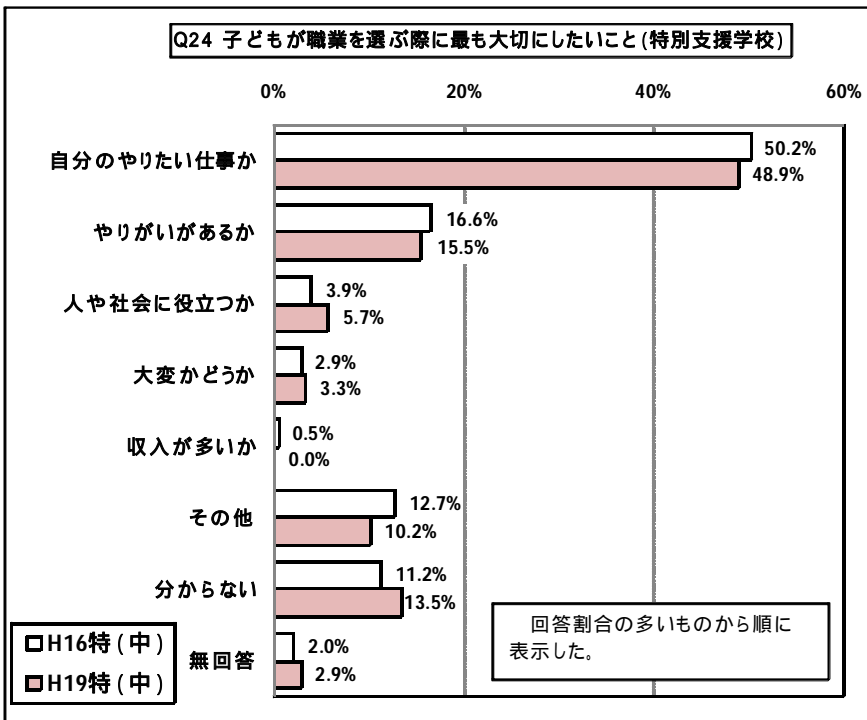
( )は16年度調査との差  
 【本調査における関連項目】  
 P38～40 保護者30・31・33 「子どもが職業を選ぶ際に大切にしたいこと」  
 P18 児童生徒28 「仕事を選ぶ際に大切にしたいこと」

保護者33 子どもが職業を選ぶ際に最も大切にしたいこと（特別支援学校）

特

⇒ 16年度調査と同様に、「自分のやりたい仕事か」が最多

Q24



【概要】

16年度調査同様に、「自分のやりたい仕事か」が最も多く、ほぼ50%となっているが、他の校種に比較して少ない。その一方、「その他」と「分からない」の割合は、他の校種に比較して最も多い。

「自分のやりたい仕事か」の割合

小 65.6% (8.4% 減)

中 66.7% (2.6% 減)

高 65.8% (0.3% 減)

特 48.9% (1.3% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P38～40 保護者30～32「子どもが職業を選ぶ際に大切にしたいこと」

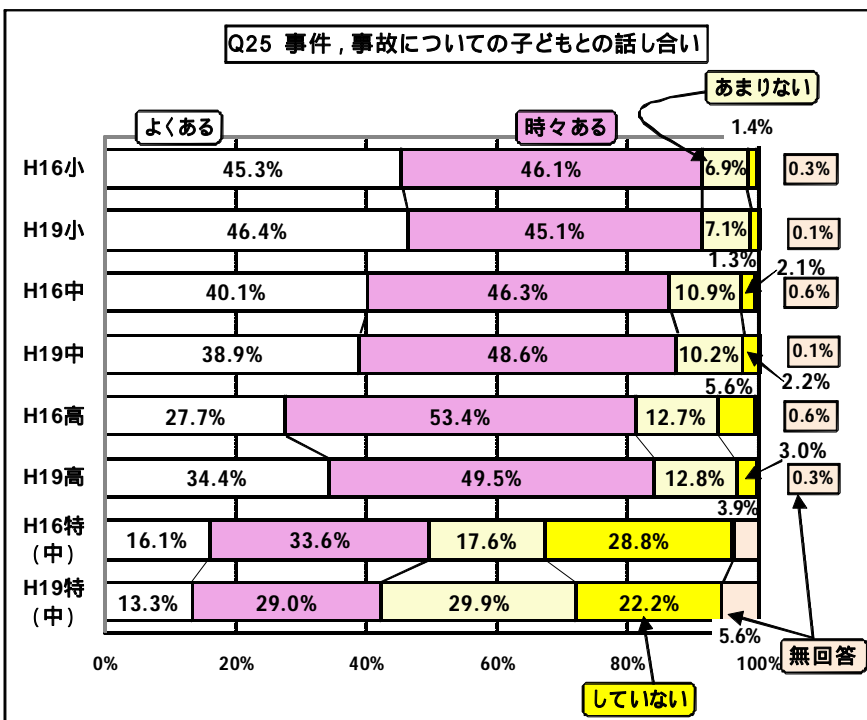
P18 児童生徒28「仕事を選ぶ際に大切にしたいこと」

保護者34 事件，事故についての子どもとの話し合い

⇒ 小・中・高等学校で肯定的な割合が80%を超える

小・中・高・特

Q25・Q25・Q25・Q25



【概要】

16年度調査と同様に学年が進むにつれて肯定的な割合が減少しているが、小・中・高等学校では肯定的な割合が80%を超えている。その一方、特別支援学校では、肯定的な割合が40%程度となっている。

肯定的な割合

小 91.5% (0.1% 増)

中 87.5% (1.1% 増)

高 83.9% (2.8% 増)

特 42.3% (7.4% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

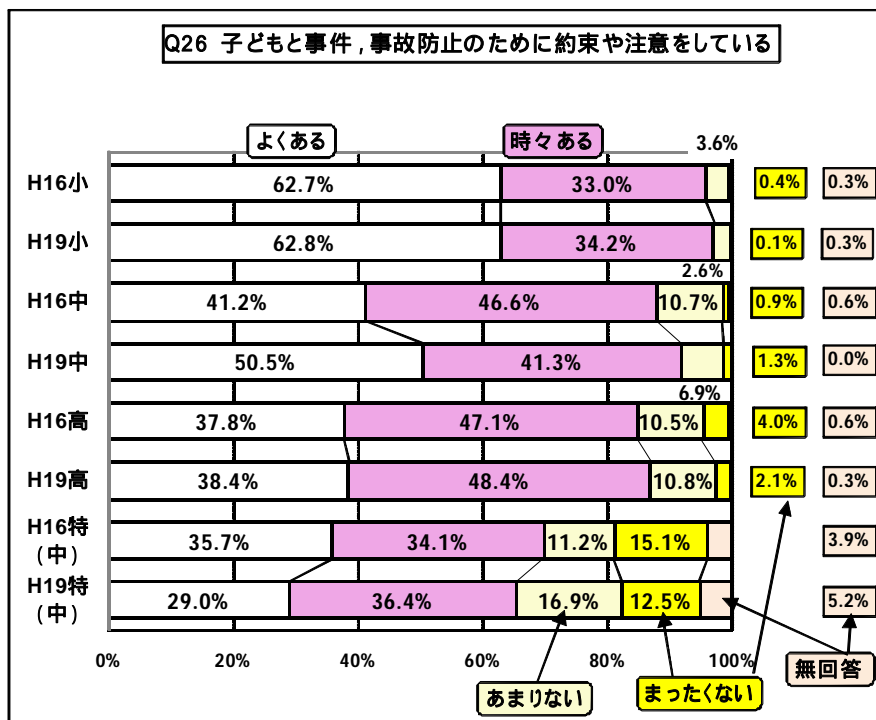
P19 児童生徒30「子どもの関係した事件，事故について家族と話をする」

保護者35 子どもと事件，事故防止のために約束や注意をしている

小・中・高・特

⇒ 小・中・高等学校で肯定的な割合が85%を超える。

Q26・Q26・Q26・Q26



【概要】

16年度調査と同様に学年が進むにつれて肯定的な割合が減少しているが、小・中・高等学校では、その割合が85%を超えている。その一方、特別支援学校では、肯定的な割合が65%程度となっている。

肯定的な割合

- 小 97.0% (1.3% 増)
- 中 91.8% (4.0% 増)
- 高 86.8% (1.9% 増)
- 特 65.4% (4.4% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P40 保護者34「子どもとの事件，事故についての話し合い」